

発行所(郵便番号100)  
東京都千代田区丸の内2-4-1  
丸の内ビルディング781号室  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel (212) 4007・1447  
編集責任者 高須裕三  
印刷所 関東図書株式会社  
定価200円(年間購読料参千円)  
1977年7月25日発行  
第9巻 第7号  
(毎月1回25日発行)  
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 9 No. 7

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

## スウェーデンに王女ご誕生

Congratulations on the Birth of Princess Victoria!



ご結婚のときのお二方

——王制との関連で

政治的論議に波及か——

Succession to the Throne may become a  
Political Issue.

常務理事 高須 裕 三  
Managing Director: Prof. Yuzo Takasu

### (I) Victoria 王女ご誕生

昨年6月19日にご結婚なさったスウェーデン国王 Carl XVI Gustaf と王妃 Silvia Sommerlath との第1子たる王女さまが、本年7月14日(木)午後9時45分、ご誕生なさいました。母子ともに健康で、お子様は誕生のとき、体重3,250グラム、身長50センチ・メートルでした。

王妃は14日の夕方、Karolinska ホスピタルに入院され、出産後4時間で母子ともに無事、王宮にご帰還なさいました。国王も出産時には Karolinska ホスピタルで待機しておられました。

翌15日午前8時には、21発の祝砲がストックホルムの夏空にこだましました。この朝、国王は枢密院の特別会において、この王女は Victoria Ingrid Alice Désirée と命名された旨を発表なさいました。今後は Victoria 王女と呼ばれることになりましょう。

スウェーデンは、世界一の長寿の国で、国王も長寿ですので、先代の King Gustaf VI Adolf も、皇太子から国王になられた年齢は中年過ぎで

した。したがって国王と王妃とが現役のときにお子様の誕生に恵まれることは、スウェーデンでは、近年珍しいことなのです。

### (II) 王位継承権の政治問題化

ところで、この第1子が女の子であったことをめぐって、スウェーデン王室に関する政治的論議の風が吹きまくるかもしれなくなってきました。

スウェーデンの現行法律では、王位継承権は男子のみに限られていますゆえに、男子の誕生がなければ、現王朝は途絶えるかもしれません。

スウェーデンの王位継承権に関する委員会は、

### 目 次

スウェーデン王女ご誕生……………高須 裕三…	1
栄誉のお知らせ……………	3
スウェーデンにおける就学前保育と その歴史的背景……………荒井 洵…	4
スウェーデンのトピック……………	8
スウェーデンの経済・社会ニュース……………	10
新刊紹介……………	12

すでに、男女完全平等の立場で第1子が王位継承すべき旨を答申しており、その趣旨に沿った政府案が国会に提出されれば、諸政党は、立憲王制の存否を基礎にした王女の王位継承権への賛否を議論し、投票で採決ということになるでしょう。最も早い場合、1979年の総選挙の後に、政府が憲法改正案を国会に提出して、何れかに決まることになります。

ここで政党別に賛否の色分けを大雑把に試みるならば、「共産党」は明確に反対。「社民党」は表面では従来は反対。しかし今回は無言、裏面では妥協が予想されるかもしれない、という何か音無しの構え。そして現在の与党たる「中央党」「自由党」「穏健党(旧保守党)」は賛成です。ただしこれら与党の中にあっても、「中央党青年連盟」と「自由党青年連盟」とは、将来の王制に反対しており、なかなか一筋縄ではいきません。

「社民党」の政党としての態度は、従来は、国王の政治的な影響力を最小限にし、いわば装飾的存在に化することに努力してきた、といえます。しかし今回の王女ご誕生に際しては、社民党からは何らのコメントも発表されず、前首相の Palme 夫妻は、国王と王妃とに祝電を送ったそうです。

ところが7月20日(水)に至って、社民党の執行委員会は、王女の王位継承問題に関し、簡単にその態度を表明しました。すなわち同党はこの問題の論議の渦中に入りたくないし、この問題は次回総選挙の根本的な論争点とはなり得ない、という趣旨でした。

「社民党青年連盟」「中央党青年連盟」および「自由党青年連盟」の若いグループは、王制にも、王女の王位継承にも反対だし、王女の継承権は男女平等の建前とは全く別だ、と態度を明確にしていますが、さて今回、「社民党青年連盟」の議長は、王女の王位問題を論ずることは、ブルジョア三党のわなにかかって選挙の票を失うことになる、とし、その際、社民党こそが最大の被害者になるであろう、と警戒的態度を示唆しているそうです。

以上のように、王女の王位継承をめぐる賛否は、今後、スウェーデン世論の重要な課題となるでしょうが、現在の与党たる中央党・自由党・穏健党としては、立憲王制維持の布石のためにも、次回1979年の総選挙に勝つことが前提的条件となってきたわけです。

### (Ⅲ) 王室に関する S I F O の世論調査

ここで参考のために、昨年、国王の Silvia 嬢とのご結婚の予定が発表されたのち、昨年5月、S I F O (スウェーデン世論調査研究所)が18歳~70歳の1,000人を対象として行なった世論調査の結果を省みてみましょう。

まず「王制賛成」組の中には、「社会主義者」の56%、「非社会主義者」の80%が含まれています。

「長期的に見て、スウェーデンには共和制が最適だ」と思う人の中には、「社会主義者およびその同調者」の22%、と「非社会主義政党への同調者」の6%が含まれています。「社会主義者およびその同調者」の中で共和制を良しと思う者が僅か22%というのは意外な数字でした。

結局、「王制賛成」=69%、「共和制支持」=14%、「どちらも同様に良い」=6%、「わからない」=11%、(計100%)でした。

さらにこの時(昨年5月、ご結婚の前月)の S I F O 世論調査には、「国王が Silvia 嬢(当時ドイツ人)と結婚なさることを認めるか、認めないか」という項目があり、その結果は、

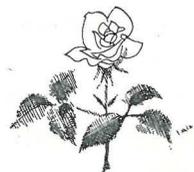
「認める」=70%、「認めない」=1%、「態度不明」29%でした。

これより4ヶ月前の昨年1月にも同様の調査が行なわれたのですが、そのときは、

「認める」=38%、「認めない」=2%、「態度不明」=60%でした。

昨年1月と5月とを比較すると、世論は Silvia 嬢に好意的な変化の跡を示しています。その背後には、当時の Palme 首相(社民党党首)が、このご結婚に賛成の意思表示をしたことに国民が聴従したという事情が相当あったことと思われます。

ともあれ、わたくしたちは、新しい王女の Victoria さんの前途の御幸福を祈ってやみません。



## 栄誉のお知らせ

### 岡村誠三博士にスウェーデンの勲章



当スウェーデン社会研究所の評議員であり、日瑞基金の理事で同基金のスウェーデンへの派遣留学生選衝委員会の委員長である岡村誠三工学博士は、本年4月、定年により京都大学（工学部）教授を退官されました（現在は京都産業大学教授）。

同教授は、大正3年1月、東京滝野川に生まれ、昭和12年3月、京大工学部卒業、講師・助教授を経て、昭和21年、同大学教授、「高分子合成講座」を担当され、内外において活躍、多数の受賞を重ねてこられました。昭和45年5月には「日本学士院賞恩賜賞」も受賞されました。

同博士は、国際的活動の一端として、昭和36年7月には「王立スウェーデン科学工学アカデミー準会員」の栄誉を受け、昭和40年9月には「ストックホルム工科大学客員教授」に任ぜられ、昭和47年には再任され、さらに昭和51年12

月には「王立スウェーデン科学工学アカデミー正会員」としての栄誉に輝かれました。

このほど、スウェーデンの Carl XVI Gustaf 国王によって、岡村博士は、「北極星勲章1級のナイト（“Knight of the Royal Order of the North Star, First Class”）」に任ぜられました。その勲章伝達式が去る7月22日6時より、スウェーデン大使館において大使代理 Olof Tunberg 氏の手で行なわれました。その受章理由は、多年にわたる同博士の日瑞科学交流への貢献に対するスウェーデン側からの評価によるものであります。

この叙勲を祝して、同博士を識るスウェーデン人学者からの祝詞・祝電が多数送られてきました。

われわれも心より同博士の類稀な学問的名誉を讃え、今後とも御健勝にて、ますます両国学界への貢献を重ねられますよう念願申し上げます。（高須）



### 山田直平教授スウェーデン王立アカデミー外国会員に

スウェーデン王立理工学アカデミーはこのほど外国人正会員に電力中央研究所理事、山田直平氏を選出した。

これは井深大ソニー名誉会長、岡村誠三京都大学名誉教授について日本で3人目である。

このアカデミーは1919年に設立された半官半民の組織で、科学及び産業技術の研究開発促進を目的とし、この種の機関では世界最古のものである。

現在スウェーデン人250人、外国人65人が会員で、これから世界が直面する問題を科学技術の方面から調査研究して、社会に貢献しようとしている。そのため、アカデミーはスウェーデン国内で活動するだけでなく、世界にも情報網を持ち、アメリカ、日本、ソ連など8ヶ国に科学技術官を駐在させ、情報及び人物交換を行なっている。

新会員の山田氏は電力技術、特に直流送電の権威者で、東大教授、電気学会会長などを務めた後、現在、電気事業研究国際協力機構日本代表、電力9社の中枢である電力中央研究所理事、工業技術院MHD発電委員会委員長などの仕事をしている。

## スウェーデンにおける就学前保育とその歴史的背景

## The Pre-schooling and Its Historical Background in Sweden

埼玉県立厚生専門学院 荒井 洌

Kiyoshi Arai

子どもをどのように育てたいのか、あるいは子どもにどのような夢を託したいのか、このことは人間の歴史の中ではいつも一見ささやかなようなことに見えながらも、実は人々の心にとっては何よりも重みを持つものであったはずである。プラトンなどをあげるまでもなく、不滅の古典とされる書物を繙けば、そこにはかならずと言ってよいほど「子育て」の問題が哲学的に深く洞察され、述べられているのである。人々が描いて来た理想の社会——ユートピアは、たとえそれが夢のような壮大なスケッチであっても、生命体としての人間の、その若芽である子ども達一人一人をいかに幸せに育てるべきかということは、常に差し迫った現実の具体的な問題でもあったのだ。

前世紀後半、わずか500万ほどの人口であったスウェーデンが、100万余という膨大な人々を海外に移住させねば食べていけなかったほどの状態から、世界の注目の的となるほどの福祉的施策を具体化させて来た過程で、いったい子どもたちに対してはどんな施策をどのように推進して来たのだろうか。このことは極めて興味をそそられる問題なのである。

## I 前世紀後半から今世紀初頭の状況

スウェーデンはいわゆる「後進国」である。産業革命による近代化は、同じヨーロッパの「先進国」であるイギリスに較べれば約1世紀遅れている。そして19世紀後半から1920年代までは「大移民時代」と称せられるほどの苦難の時代が続いたのであった。そしてそれに続いて、1929年に始った世界恐慌はスウェーデンにも波及し、数年後の1932年には事態は極めて深刻化するのである。このような状況下に、スウェーデンの人々は社会民主労働党に政権の座に着くよう求めたのである。

同じ「後進国」であるわが日本の当時の状況を瞥見すれば、ウォール街に発するかの不況の波と、農業の冷害、不作等が重なり、事態はやはり相当

に深刻であった。そして1931年（昭和6年）、「満州事変」へと突入し、15年間にわたる救いの無い歴史を辿ることになる。

このような厳しい背景を一応把握した上で、幼い子どもたちに対する社会的な施策にはどのようなものがあつたのか、順を追って追ってみることにしよう。

「大移民時代」に該当する時代、即ち19世紀後半から20世紀初頭にかけては特に見るべき施策は無いようである。フレーベル（Fröbel）がキンダーガルテン（Kindergarten—日本では幼稚園と訳出した）を創設したのは1840年の頃であり、後に世界各国に普及するのであるが、スウェーデンにも1860年代になるとフレーベル流の内容を持つ幼稚園が作られたという。ちなみに日本では、1870年代、つまり明治の初期から完全にフレーベル式の幼稚園が国の施策として設立され、（つまり国立の幼稚園がまず作られたのである）ほどなく全国各府県に波及していったのである。昨年は、この幼稚園開設以来100年ということで記念の行事が種々とり行なわれたのである。

日本の初期の幼稚園がそうであったと同じように、スウェーデンの幼稚園も、ほんの一握りの都市に住む上流階層の子どもたちのための存在であったようである。だから幼稚園の保育内容は、上流の家庭のお子様の幼い時からのエリートとしての教育が主であったことが想像されるのである。

一方、現在の保育所の元になった託児施設は、幼稚園とは正反対の子どもたち、つまり育つべき場である通常の家をを持たないような子どもたちのためのものであった。たとえば、極貧家庭の子ども、落ちてしまった女性の子どもの、親の無い子ども、そういった子ども達を収容する施設としての存在であった。

## II 社会民主労働党政権化の施策

1932年、社会民主労働党が単独で政権をとり、

社 会 的 背 景	就 学 前 保 育 関 係
<p>19世紀半ば</p> <p>↓</p> <p>「大移民時代」</p> <p>産業革命 { ・スウェーデン 1870年代から ・日本 1880年代から</p> <p>↓</p> <p>1920年代</p> <p>1919 8時間労働制</p> <p>1929 世界恐慌</p> <p>1931 恐慌、スウェーデンに波及</p> <p>1932 不況の深刻化 社会民主労働党が単独で政権をとる。以後40余年、政権を担当</p> <p>1936 7年制義務教育</p> <p>1937 結婚等を理由とする女性の解雇禁止令</p> <p>1939 ↓ 第2次大戦中完全中立を維持</p> <p>1945</p> <p>1946 学校給食の無償制</p> <p>1962 9年制基礎学校成立</p> <p>1971 総合制高等学校成立（ホワイトキャップ廃止）</p> <p>1973 高等教育改革について答申</p> <p>1976 総選挙、政権交替</p>	<p>1860年代 フレーベルの影響</p> <p>1900 エレン・ケイ「児童の世紀」を著す</p> <p>1935 人口問題調査委員会— —就学前期の教育を重視</p> <p>1937 孤児、母子家庭、病児等への手当て制度</p> <p>1941 人口問題調査委員会— —保育所増設を提起 (戦争の影響による女子労働力の確保)</p> <p>1944 保育所、幼稚園、学童保育所を結合したチャイルドセンターができる</p> <p>1947 児童手当制度</p> <p>1950年代 保育施設伸び悩む</p> <p>1960年代 保育施設急増</p> <p>1962 養成校の国立化</p> <p>1969 家庭保育室、訪問保育員を公的に運営</p> <p>1975 就学前教育法 社会庁による「保育指針」の発行 すべての6歳児に無償の就学前保育</p>

福祉政策に力を入れるようになると、いわゆる託児施設、今で言う保育所のレベルアップのために力が向けられるようになる。保育所には国から補助金が出されるようになり、幼児教育の資格を持つ者が保育所にもはいるようになる。

1937年、政府は孤児、母子家庭、病児等、ハンディキャップを背負う子どもたちに手当てを支給することを決めている。

しかし、まだまだ保育所等の児童施設は量質ともに貧弱であったようだが、ここに意外とも言える注目すべき貴重な記録がある。それは1938年（昭和13年）、日本で発行された一冊の本であるが、当時著名であったアメリカのジャーナリスト、M・W・チャイルズが書いたものを、賀川豊彦、島田啓一郎が翻訳した『中庸を行くスウェーデン—世界の模範国—』（豊文書院）である。（原文は M. W. Childs; “Sweden—the Middle Way” 1936）チャイルズはこの本の中で、スウェーデンの推進している福祉政策を驚嘆のまなこを以って見ているのである。ここで、保育所についての記



事を見てみることにしよう。

「就中最も注目されるのは、各アパートの共同育児室である。最上階に、多くは美しい装飾を施した白い柔かな色の部屋が設けられ、労働婦人は此処に、毎日極めて少額の費用で、朝6時半から夕6時半まで、熟練せる保母の手に自己の子供を委ねてゆくことが出来る。乳児ですらこの育児室に委ねることが出来て、其処では極めて行き届いた世話を受けている。多少でも病気の徴候があれば、児童は、この育児室に隣合った病室に容れられる。成長した児童の為には十分な遊戯設備と屋上の露天遊戯場とが興へられている。」(P.101)

そして託児室内部の写真二葉が掲載されているが、簡易ベッドで午睡しているところ、それから遊戯室のありさまは現在のスウェーデンのそれとほとんど変わらないと言ってよいほどなのである。もちろん、このような施設は当時としては最先端を行くものであったに相違ないが、それにしても新しい政権が誕生してから4~5年にして、児童福祉に対する強力な基本路線が打ち出されていたことを伺い知ることができるのである。

1939年、ヨーロッパは大戦の渦に巻き込まれる。しかしながら、スウェーデンはナポレオン戦争以来、つまり1814年から1977年の現在に至るまで、二度の大戦をはじめ一切の戦争に巻き込まれていないという、近代世界史上驚嘆すべき歴史を持っている。戊辰戦争以来、度重なる近隣諸国との戦争をステップに、経済力を発展させて来たわが日本とは、近代化の遅れた国同士としてはまさに好対照を為していると言ってよいであろう。

ヒットラーがほとんど全欧州を席卷した時にも、スウェーデンはとにもかくにも中立を維持していたのである。しかしながらあの大戦争の影響は避けるべくもなく、青年男子は続々と兵役に招集され、労働力不足は女性を家庭から工場に引き出すことになったのである。1941年、人口問題調査委員会は、女性の労働力確保の必要性から保育所の建設を促す答申を出し、予算面での措置がとられたのである。

大戦の末期に近い1944年、半日保育のいわゆる幼稚園と、一日保育の保育所は同等の内容をもつものとして扱うことになり、施設、設備等の最低基準が定められ、それに基いた国庫補助が行なわれるようになる。そして現在一般化しているチャイルドセンター、つまり幼稚園と保育所、学童保

育所が有機的に結びつけられた施設は、この年にストックホルムではじめて作られたのである。

大戦が終わると、「ゆりかごから墓場まで」をスローガンとする福祉政策のメッカであるイギリスでは、労働党内閣がベバリッジ・レポートに従って着々と具体的な施策を実施していったのであるが、こちらスウェーデンでも、すべての子どものための児童手当制度をいち早く発足させたのである。

大戦の混乱も落ち着き、ヨーロッパには平和が戻ったものの、1950年代になると経済の落ち込みが女子労働者に直接的な影響を与えることになる。特に繊維産業を中心とする女子労働者の解雇が相次ぎ、託児施設としての保育所は数の上で停滞ないし若干ながら縮少の傾向さえ見られるようになる。

保育所・幼稚園の幼児定員数

	保 育 所	幼 稚 園
1955年	10,000	27,800
1960年	10,300	38,400
1965年	11,900	52,100
1970年	29,200 (33,500)	71,900 (82,300)

1970年の( )内は収容幼児の実数

※ Bodil Rosengren; "Pre-school in Sweden" The Swedish Institute, 1973 の資料をもとに筆者作成

1960年代にはいと、日本では政府自ら「所得倍増」をキャッチフレーズとしたかの高度経済成長が開始されるわけだが、スウェーデンでも経済の上向きに従い、保育所、幼稚園の定員数が急増されている。また、このような事態に対応するように、1962年、国会は就学前教員養成校の国立化を決議し、教育庁の管轄の下に国立のカレッジとして位置づけたのである。そして就学前教員を初等、中等教員と同じ範疇として扱うこととしたのである。蛇足ながら、入学の資格要件に男女の別は無い。当時6校であったカレッジはその後の10年間に10校増設されている。

### Ⅲ 新しい傾向について

1975年という年は、スウェーデンのプリスクーリングにとっては一つの画期となった。同年7月1日を期し、すべての6歳児に対し1年間の無償

就学前保育を提供することになったのである。(ちなみに、スウェーデンの就学年齢は日本より1年遅く、7歳である。)

時間数で見ると、すべての6歳児は週15時間、年間にすると合計525時間は集団生活をするようにということになっている。525時間は35週分に当る。なお、どのような場で集団生活をするかは自由に選択することになっている。

また、同時に、社会庁は就学前保育についての、いわば「保育指針」とも称すべき冊子を発行したのであるが、内容のあらましを見ておくことにしよう。

まず目的として、「就学前保育の目的は、両親との協力のもとに、子ども一人一人に対し、情緒的な面、及び知的資質の面において豊かに、そして個性ある発達ができるよう最善の機会を提供することである」としている。そして家庭との協力関係については、「家庭と就学前保育機関は、子どもの成長にとっての総合的な環境と見なされるべきである」「就学前保育においては、子どもを大人や他の子どもたちの両者に接触させるように図るべきである」とし、保育の基本的な姿勢としては、「子どもは内発的な興味と、新しい知識を得ようとする衝動を持っている。この自動的な活動を就学前保育は助長すべきである」と述べている。

この「保育指針」の言わんとする主なところを箇条書きに列挙してみよう。

- ・準備教育の否定。
- ・自由活動を中心とし、子どもの好奇心によって知識を獲得させる。
- ・一定の決められた型のカリキュラムに基くべきではない。
- ・地域社会との交流、総合的な環境作り。
- ・大人や他の子どもたちとの接触。
- ・家庭との協力。
- ・主体性、個性の尊重。
- ・バイタリティーの助長。

開放性ということに関連して、ミオープン・プリスクールというスウェーデンの新しい傾向に注目しておく必要があるだろう。つまり保育所でいえば、契約児のみを社会から隔離して育てるのではなく、地域社会の様々なタイプの家庭に対し保育所がいろいろな形で奉仕できるようにしようとい

う試みである。たとえば、家庭で育児をしている人々も時々は望む時間に施設に集って、親同士が育児の経験を話し合ったり、子ども同士遊んだりするのである。また、小児保健や、児童福祉等の専門の職員に相談にのってもらったりもするのである。子どもも親も孤立感を味わうことなく、それでいて自由な生活を楽しむという、この新しいやり方の今後の推移には是非注目して行きたいと思う。

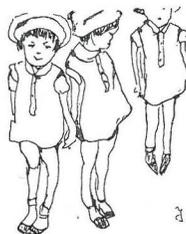
#### Ⅳ エピローグ

概してスウェーデンは自ら認めているように様々な面で後進的であった。しかし、1960年代、1970年代は福祉政策、とりわけ、青少年に対する教育、及び幼児保育の面での拡充にはめざましいものがあつた。

保育需要に対する供給率を見ると、  
1950年……………25%  
1977年(今年)…60%  
1980年……………80%(予定)

である。

昨年9月のスウェーデンの総選挙の結果は「革保逆転」であった。議席数で見ると、社会主義政党的の169に対し、非社会主義政党的は180である。新政権成立以来、間もなく1年になろうとしている。今後のこの国の福祉路線はどのような方向をめざすのか。経済学的にはどうなのか、哲学的にはどうなのか、はるか彼方の日本でも、多くの人々が注目しているのである。研究所の学究諸氏のレポートを期待している人は多い。



### 海外援助に関する Axel Iveroth 氏のインタビュー

スウェーデンの海外援助のための政府機関 SIDA (Swedish International Development Authority) の機関誌 <sup>ラポルト</sup> rapport (スウェーデン語で年に8回発行) で、前産業連盟会長 Axel Iveroth 氏が海外援助についてインタビューを受けていましたので、ここに紹介いたします。インタビュアーは、外務省開発援助局です。

質：スウェーデンの海外援助政策についてどう思うか？

答：まず第一に海外援助の政策をもつことは正しいことである。援助の理由は純粹に人道的であるべきだが、古い考えにみられるような貧しい者は救うべきであり、援助は恵みであり、我々は感謝されるべきだという考えは誤りでである。

質：どのような国に援助は与えられるべきか？

答：生産力が低くて海外からの援助を是非必要としている国だけに援助はいくべきだとは私は思わない。発展途上国にはいろいろあって、例えばブラジル、マレーシア、インドネシアなどのように、国のある部分は発展しているが他の部分は未発展という国もある。私はこれらの国々は皆、援助の対象国だと思う。

又、私は援助は途上国の政治制度に関係なく与えるべきだという主義だ。援助を与えずにその国を罰するというようなことはすべきでない。これには二つの理由がある。一つはどの国にも最低の状況に置かれていたりして変革を望んでいる者がいるが、私達が与える援助はすべて政治的解放へつながり、人々は暮しやすくなる。海外援助は政権を握っている者にとってよりも抑圧されている人にとって助けとなる方がずっと多い。これは特に独裁政権の国にあてはまると思う。第二の理由としては、援助あるいは貿易を通じて他国と接触する時、状況を知ることができるし、ある程度影響を与えることができるからだ。

ここで付け加えたいのは、スウェーデンの産業界は発展途上国の希望を聞き、これに応える意図があるということである。企業は技術を売ることにのみ熱心だと云う者がいるがそれは間違いだ。企業が発展途上国の政府と投資や技術のセールスについて交渉する場合、途上国は詳細な希望を規定するのが常で、企業がこれに応える意志、用意

がない時は交渉はまともまらない。

質：例えばインドについて考えてみた時、あの貧困の原因は何だと思うか？

答：気候以外には考えられない。赤道周囲の国では飢死スレスレのところできいていきがちで、温和な気候で生活しているように余分な努力をしようという気にもならない。更に昔はインドはシベリアやスカンジナビアよりも生活するのがたやすかったから、気候風土は文化の発達を当初から助けてきた。それは奴隷文化だったが、とにかく古代文化は繁栄した。その後、人々は宗教的、社会的概念を、階級や宗教諸派を土台に創られた社会に人間を結びつける概念と結びつけた。これは社会構造を閉鎖させ、私達が社会機能を発達させることができたようなタイプの発展を妨げる結果となった。

質：インドにとって開発とは何を意味するか？

その目的と方法は？

答：まず第一にカースト制度の打破である。社会的境界線を越える発展を妨げている社会階層を壊すよう努力しなければならないと思う。そうした可動性が生産性を高める前提条件である。

まず努力すべきことは、食料や簡素な住居で使うものの生産を国民に始めさせることだ。と同時に工業も発達させなければならないが、小規模な産業にのみ集中してはいない。海外へ売ることができる加工品、半加工品を生産する大企業がインドにも必要だ。

私はもう一つ、開発途上国の生産とマーケティングを発展させる最善の方法の一つは悪名高い多国籍企業を利用すべきだという異説を持っている。多国籍企業は技術をもっているし、これを途上国に伝授できる。この際には大株主になるとかそういった要求はせず、可能な限りの途上国との協力を考えるべきだ。

質：スウェーデンの商品やサービスとタイアップした援助は、スウェーデンの雇用状況、産業界にどのような意味をもつと思うか？

答：雇用状況にとってもつ意味はそれほど大きくない。企業を維持する為にスウェーデンの商品やサービスと結びついたヒモつき援助をふやそうというのは現実的でない。勿論、閉鎖の危機にさらされている多くの企業はこれをいいと考えるだろうが、こうした企業はそういう補助金で長期にわたって存続することはできない。

しかし、他の先進国が大幅に行なっているヒモつき援助はスウェーデン企業が発展途上国の市場で不利な立場に置かれるだろうということを意味する。私達の競争国はよく知られているように発展途上国に足場を固め、競争相手を寄せつけない為の効果的な手段として援助を利用している。スウェーデンが、途上国に与える援助のごく僅かな部分しか拘束していないことは、スウェーデンは不利な状況で他国と競争しなければならないことになる。

質：貿易や産業活動が発展途上国の有利になるべきだといわれるが、その国の一部のグループにのみ有利になることをどうしたら防げるか？

答：それはさっき援助と途上国の政治制度との関係で云ったのと同じことだ。つまり、経済発展や生活水準の向上が速ければ速いほど政治的解放や経済的、社会的平等の達成も速くなる。

質：新国際経済秩序についてどう思うか？

答：まず問題となっているのは新しい国際経済秩序などというものではない、単に現在の不満足な状況をいかに正しくするかという問題だ。開発途上国との貿易、あるいは先進国どうしでの貿易でも是正し監視しなければならないことはたくさんある。次に技術の伝達とその値段の問題がある。しかし大部分の技術はすでに無償で伝えられているし、発展途上国は基本的には発展の際に必要な全てへのアクセスを持っている。問題なのは技術を途上国に適用することで、彼らは必ずしも自分達では扱えない。

天然資源の値段は厄介だ。何10年もの間、数多くのプロジェクトが行なわれてきて、今人々はこれをみな集めて、さあ天然資源の問題は解決されるだろうといたりしている。又、この問題をライセンスや発展途上国の負債で解決しようともしている。そして、これらが解決されれば新国際経

済秩序が得られるというわけだ。大切なのは発展途上国にとっても効果的に作用する世界市場を作ろうということである。問題と取りくんで解決しようとするのは当然だが、それは現在の市場経済の代りに全く新しいシステムを設けようということではない。

質：21世紀の世界はどうなっているか？ 現在以上に多くの人間が依然として惨めな状態で暮していると思うか？

答：人口増加は低下に向い、人口の伸びと資源のバランスは良くなっていくと思う。収入は水準が高くなると共に平等化も進むだろう。しかし、これは非常に長い時間を要するし、先進国にいる私達が自分自身の資源を使い尽せばできるというものではない。どこかで余っている物を世界中にまき散らして、それをパンの上にバターを塗るように均等化したところで大して役には立たない。そのような方法ではインドの収入状況を数クロネあげることがせいぜいだ。一番大切なことは、もし私達が発展途上国の人々を助けたいのなら、自分の国でできる限り一生懸命働くことだ。

しかし、どうやって自国の国民にこれを説明するか？ 特に他人を助ける為にもっと自分が働かなければならないという場合は？ 問題はスウェーデンのような先進国の国民は、物をこれ以上買いたくない状態に達しても喜んで今まで通り懸命に働くかどうかである。15、20、30年前には何を買うべきかを知る為にわざわざ広告を見る必要はなかった。しかし、物を持ちすぎて飽和状態に達したような現在、どんな動機で見たこともない他人が自分の労働成果の一部を得られるからと、一生懸命働き続けるだろうか？ スウェーデン人はそれほど国際的だと思わないし、実際の活動をスウェーデン国内でみることは私は非常に少ない。

一方、スウェーデンは発展途上国の為に他のどの先進国よりも貢献してきた。もし、東側の諸国も含めて他の先進国がすぐに発展途上国援助を大幅にふやさないのなら、スウェーデンは当然のごとくなぜ自分達だけが発展途上国の為にこれだけ犠牲を払わなければならないのかと問うことができる。

私は社会の成長を続けさせる方法を捜している。民主社会の絶えざる解放と活力、と共に生産と労働の活力、これが将来の大きな問題だと思う。

(小山)

## 最近のスウェーデン経済・社会ニュース

### 北欧諸国の成長率予測

1977年及び78年についての北欧諸国の経済成長予測は、石油生産が引きつづき急速に成長している結果として5～9%の高度成長が期待できるノルウェーを例外として、極めて普通のものとなる。他の国でのこの2年間の予想平均成長率は2～4%であろう。

この数字は北欧4ヶ国の工業連盟の経済専門家が半年ごとに公表する分析である「北欧経済概説」(Nordic Economic Outlook)に公表されたものである。

さらにこの報告書は完全雇用を目標とした政策は全部が成功したものではないとのべている。現在の所まで、公式の失業水準はスウェーデンとノルウェーでは、全体の労働力の1～2%と極めて低いものであり、一方デンマークとフィンランドでは4～6%に達しており欧州の平均にならんでいる。

生産能力の不完全利用も広がっており、かつまた失業率が低いこれ等の二国でも、労働市場の状況は満足なものとはいえないと言われている。

需要をかきしよとする努力は、インフレ率と労働者をおし上げる役をはたしている。これによって相対的なコストは悪化し、すでに悪化している海外とのバランスをさらに悪化させることになっている。

この4月にデンマークとノルウェー、スウェーデンがデバリュエーションを行って「ミスネーク変動巾」の範囲内で自国の通貨を調整したときに若干の修正がなされ、この「ミスネーク」方式に参加していないフィンランドもこれにならっている。

1977～78年における国際的ビジネスの環境が大幅に上昇するものとしても、成長と雇用の予想は北欧諸国でもノルウェーを例外として決して明るいものではない。主たる理由は国内需要が特にスウェーデンとデンマークで低調である為である。しかし、輸出は全ての国でこれよりも活発であろうと信じられている。

### 全北極海を航海する北極探険

初めて全北極海を航海する大規模な探険計画が、スウェーデン人類学・地学協会(Swedish Society for Anthropology and Geography)の百年祭に際して、ストックホルムで公表された。

予定の航海の共同発起人は、同協会自身、王立科学アカデミー(Royal Swedish Academy of Sciences)及び王立海洋科学協会(Royal Swedish Society of Naval Sciences)であろう。

1978あるいは1979年夏に計画されている3ヶ月間の探険は、1878～1879年のアドルフ・エーリック・ヌルデンシエルド氏(Adolf Erik Norden-skiöld)の航海百年に一致する。彼はスウェーデンの科学者であり、北海探険家であって、彼の仲間と共に、60馬力の蒸汽船ヴェーガ(Vega)に乗船して、世界で初めて北東航路を航海した。今度の探険は、部分的にヌルデンシエルドのルートをたどるが、概して北極流域を航海し、北西航路でもどってくる予定である。

約30名の科学者が、この探険に参加する模様である。この探険は、全長104メートル、2,000馬力の出力、喫水7メートル、乗員60名の大型国有砕氷船に乗船して指揮されることになる。

さらに、付加的な航海援助としてまた、科学的調査を行なうために、一台のヘリコプターの提供が望まれている。

学究的計画としては、氷河期の研究、文明圏から北極地域に達する汚染の測定、北極海の海底沈澱物の分析、及びその地域の太陽輻射熱の調査などがもくろまれている。ヌルデンシエルド氏によるシベリア北方における藻類の研究は、過去100年間にいかなる変化を来したか、精密な確証を得るために再び行なわれる予定である。

### 電話によるペースメーカーコントロール

スウェーデンの医学雑誌によると、ペースメーカーを使って、在宅患者のECG検査の日課を病院と家庭を結ぶ電話で果すことが可能なシステム

が、ストックホルムのカロリンスカ病院 (Karolinska Hospital) において1971年度より実施され、成功をおさめている。

セルコン・ペースコントロール (the Selcom Pace Control) と称するこのシステムは、病院の仕事を簡略化し、患者の通院や遅刻をなくし、往復運賃を節約する。また、長期に亘るペースメーカー作用の可能も立証している。

必要な送電器と受信器はバッテリーパワーで、前者は患者の電話の下に、後者は病院のECG検査器に設置する。患者は三脚の電極を胸部に取り付け、病院の電話が事前に準備された時間に送電器のボタンを押す。

これにより、送話の回路がとぎれ、45秒間ECG検査器の回路に切り変わる。

45秒間後、通話回路が回復し、次のコントロールに対して病院の手配がなされる。

現在まで総数2,700台の電話コントロールが設置された。

当初、ECG送信器の3~4%は分極により妨害を受けたが、送信器の改良の結果、586台の検査中1ケースを除いて成功をおさめた。

## カドミウム発見用の新しい計測装置

自然環境のなかで発見された最も有害な重金属と分類されているカドミウムを発見し計測する為の新装置のプロトタイプが、このほど環境保護庁 (National Swedish Environment Protection Board) の為に王立技術アカデミーに建設された、と雑誌ニー・テクニク (Ny Teknik) はのべている。

この新しい計測装置はピストルの様な型をしており、放射線源としてイオダイン・125を用いたX線蛍光技術を用いている。この円筒を計測すべき対象物や物に向けて引金をひく。最少限の放射性をもった光線が対象にむけて発射され、反射してきた放射線は装置の円筒上についているデテクターによってフィルターにかけられ記録される。

この計測の結果は一定量のカドミウムを含有した標準サンプルと比較して計算される。この新装置は固体、液体、又は粉末中にあるカドミウムの量をグラムあたり100マイクロンの精度で計測できる。計測に要する時間は約1分である。

## ご 案 内

10月17日開催予定

## スウェーデン語講習会

当研究所では、スウェーデン語の講習会を、8週間単位で、毎年3~4回宛開催しております。初心者対象で、週2回出席で、午後6時からと7時30分からの各1時間20分の授業です。講師は日本人とスウェーデン人の組合せです。今回は当初以来36回目となります。

詳細は当研究所へ電話 (212-1447、212-4007) でご照会下さい。

# 職場組織の 改善と能率

日本大学教授

高須裕三

中央大学教授

丸尾直美 編著

トヨタ自動車工業(株)取締役

坪井珍彦

276頁 定価 1200円  
送料 160円

職場の再組織

労働環境をどう人間化するか  
ライン作業の再組織と改善  
コンベア作業の問題と改善の方向  
「マン・マシン」のあり方

日本における  
労働環境の特  
殊性と対策

自動車産業における労働の人間  
化—トヨタ自動車工業  
家庭電器産業における労働の人  
間化—松下電器、三洋電機、三  
菱電機  
自動車部品メーカーのモジュ  
ール方式—関東精器、日本ラヂエ  
ーター

海外企業の職場再  
組織の実態

「組織崩壊現象」に悩む企業  
作業再組織による画期的な新工  
場  
「生産グループ」「推進グル  
ープ」による職場の活性化  
ホワイトカラー労働にも人間化  
を  
「ジョブ・エンリッチメント」  
の成功例

頻発する山ネコ・スト、転職率とアブセンティズム(計画的欠勤)の著しい増加、組織の規律喪失ないしディスオーガナイゼーション(組織崩壊)現象の兆候など、先進諸国の工場および労使関係は重大な転換期に直面していると言えよう。

他方、こうした現象に対応する新しい自律的秩序の兆候も各国にみられはじめている。本書で詳細に紹介されているスウェーデンのボルボ社、サーブ・スカニア社、あるいはアメリカのゼネラル・フーズ・トペカ工場などは、作業の画期的な再組織と新方式の導入によって、現代の工場が抱えている問題を解決し、環境改善と能率の両立にめざましい成果をあげている先駆的工場の好例であろう。

日本の場合はどうであろうか。日本はヨーロッパや

アメリカとは事情が違い、日本人はもともと勤勉であるし、単一民族であるからコミュニケーションもうまくいっているし、人間的参加の組織もでき上がっている、と見る向きが多いようである。しかし人の意識というものは、契機さえあれば大変化し得るものである。オイル・ショックを契機とした消費者意識の変化で我々はそれを経験済みである。また、よごれる仕事を極端に嫌い、阻害意識の強い最近の若年労働者をつなぎ止めておくために、現場の管理者がどんなに頭を悩ましているかは、もっと知られるべきである。そういう意味で、本書に紹介されているトヨタ、松下電器などの日本の先駆的工場の努力は、大きな参考になるであろう。

〒100 東京都千代田区霞が関1-4-2 電話(03)504-6515 振替東京 25976

ダイヤモンド社